

① 1～2年の場合

○一斉指導で

たとえば、「かにむかし」を読み聞かせてやる。

そのあと、

「このおはなしをね、もういちど、おかあちゃんにね、おはなししてやりたいね。で、おかあちゃんに話すようにお手紙書こうね。」

あるいは、

「さるにやつつけられて死んでしまったおかあさんがにね、このおはなしの終わりまでのこと、知らせてやろうよ。母さんがは、おはかの下だけど、お手紙書いてあげよう。」

などと、いっせいに書かせる。

その中で、とくにおもしろかったところは、くわしく知らせた方がいいことも教える。

書いたもののいくつかをとりあげて、(中心のあるもの、とぎれないものなど)読んでやって、

「こんどはね。ひとりひとりがいちばんすきな本でお手紙書こうよ。」

と個人に返していく。

◎「書く」とき、伝える対象を明らかにすること。それによって「文章」が生まれる。

「おもしろかった所を書きましょう」などと一般的にいわない。

また、四〇〇字詰め原稿用紙三枚などは、一年生では、一般にはむりなことで、一枚でも二枚でもよいし、書ける子には、五枚でも六枚でもよい。

一、二年では、「あらすじ」が自分なりの中心をもつて伝えられたらよい、とされている。

② 3～4年の場合

①自分の一番気に入った本を選びなさい

「感想」を書くのですから、いいかげんに選んだ本では書くことが出てこないでしょう。「この本はほんとうにおもしろかった。」「この本を読んだらジーンときた」というものを選ぶことです。そういう本だと書くことは自然に見つかります。

②心に残ったところをめぐりなさい。

○ その本を読んで、ドキドキしたり、にこにこしたりした

ところをカードに書き出してごらん。その下にじぶんが思ったことを書いてごらん。

--

本の内容

--	--	--

.....
.....
.....

自分の考えたり思ったこと。
(ハッとしたこと・感動したこと・教えられたこと・
びっくりしたこと・初めて知ったこと).....

③ その中で、一番くわしく書けるところのカードを一つか二つ決めなさい

あれもこれも書いていては、まとまりのある文章になりにくいのです。

④ カードを書く順番にならべてみなさい

ぬけているところがあつたらカードをつけたしてもよいし、よぶんなカードはぬいてもよろしい。

⑤ カードをもとにして感想文を書いてみましょう

・ だいたいの話をさきに書いてからでもいいし、カードの順に、自分の思ったことも
いれながら書いてもいい

◎ 内容に沿いながら、自分の感想が出していければよい。

③ 5～6年の場合

○ 「ぼくは、この本をよんで、一番くちおしく思ったのは、日本の兵たいが、日本人の赤ちゃんを殺すところだ。」

などと、その本を読んで、自分が一番強く思ったり、感じたりしたことを、長つたらしい題にして書いてごらん。

○ それから、その内容のあらましを、自分の書きたい中心部分がわかるように紹介してごらん

○ 自分の感想の中心になるところをくわしく書き、自分の意見や感想を書け。

○ この本を読んで、新しく考えたり、知つたりしたことあらためて思ったこと.....この本を読むまでの自分と読んだ今の自分の心の中を書いてごらん。

◎ 今の段階の子どもが、新しい世界にふれたとき、そこでの自分を見つめさせる。
本を読んだこと、(その中身) から自分や自分のまわりの現実を見直しさせる。

◎ 自分の感想の中心となるところ(場面・主題・思想・作者の考え方など) がつかめない

書いていっても、終わりがなくなる。

◎ ◎
(参考)

「考える読書」(全国学校図書館協議会)

「年刊日本児童文詩集」